

平成27年度 石見銀山基金事業

石見銀山学習概要報告集

校區別

【第一中学校 : 大田小学校・長久小学校・池田小学校・川合小学校・久屋小学校】

【第二中学校 : 五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校・久手小学校・朝波小学校】

【第三中学校 : 大森小学校・高山小学校】

【北三瓶中学校 : 北三瓶小学校】

【志学中学校 : 志学小学校】

【大田西中学校 : 温泉津小学校・仁摩小学校】

目 次

○ 中 学 校

第 一	一	・ ・ ・	1
第 二	二	・ ・ ・	3
北 瓶	三	・ ・ ・	5
第 志	田	・ ・ ・	7
大		・ ・ ・	9
		・ ・ ・	11

○ 小 学 校

大 田	・ ・ ・	13
長 久	・ ・ ・	15
五 猛	・ ・ ・	17
静 間	・ ・ ・	19
鳥 井	・ ・ ・	21
久 手	・ ・ ・	23
朝 波	・ ・ ・	25
4 班 連 合	・ ・ ・	27

(北三瓶、志学、池田)

川 合	・ ・ ・	29
久 屋	・ ・ ・	31
大 森	・ ・ ・	33
高 山	・ ・ ・	35
温 津	・ ・ ・	37
仁 摩	・ ・ ・	39

石見銀山を知ろう！！

実施学年： 3年生163名（教員9名）

目的：①石見銀山についてより深く知る。

②石見銀山について語ることができるようにする。（石見銀山をPRする。）

③ふるさとへの誇りと愛着を育てる。

流れ：①ガイダンス

・目的・計画を聞く。（1h）

・石見銀山について石見銀山資料館所長 仲野義文さんのお話を聞く。（6/5）

（6/5, 1h・2クラスと3クラスに分かれて）

・現地学習グループ（コース）分けをする。

②事前学習（2h）

・各グループが現地学習で回る箇所（人）について調べ学習をする。（「銀山新聞」作成）

③現地学習（6/18（木））

午前

・各コースで、クイズマップ（昨年度作成）を見ながらウォークラリーをする。

・1人が3問ずつクイズを作る。そのクイズの答え（解説も）を作成する。

午後

・学校へ帰ったのち、クイズマップを班ごとに仕上げる。（班ごとに5問精選）

④事後学習

・銀山学習の感想を書く。（6/18 午後）

・文化祭でクイズマップを展示し、お互いのクイズマップを見る。

現地学習でのコース：

<銀山地区コース>

銀山公園→下川原吹屋跡→豊栄神社→（極楽寺）→清水寺→清水谷精錬所跡→大久保長安の墓→銀山公園

<大森街並みコース>

銀山公園→城上神社→勝源寺→熊谷家住宅→西性寺→観世音寺→旧河島家→栄泉寺→銀山公園

<商家等住宅遺跡コース> ※熊谷家・旧河島家のみ公開

銀山公園→岡家→熊谷家住宅→青山家→旧河島家→柳原家→阿部家→三宅家→金森家→（高橋家）
→銀山公園

<戦国時代前～江戸時代コース>

銀山公園→城上神社→勝源寺→井戸神社→観世音寺→妙蓮寺→栄泉寺→下河原吹屋跡→西本寺
→大久保長安の墓→銀山公園

<龍源寺間歩コース>

銀山公園→龍源寺間歩→（銀山地区散策）→銀山公園

※コースは、昨年と同様であるが、登山道崩落のため（毛利元就コース）を中止とし、5コースとした。

生徒の感想：

銀山学習を振り返って

- ◇私は大森自主研修で、大森の歴史について学びました。私の班は住宅遺跡を見て回りました。熊谷家住宅と旧河島家は、実際に住宅の中に入り、展示品を見ることもでき、とても勉強になりました。また、大森の町並みに町の景観を守るための工夫があることは知っていましたが、歩いてみることで分かることが沢山ありました。今、世界遺産としての大森は銀の町というイメージを持っている人がいるのではないかと思います。ですが、銀だけではなく、歴史ある町並みや、その景観を守るための、他の町では見られない様々な工夫にも注目して、より多くの人に、大森の町を楽しんでもらいたいです。
- ◇石見銀山は、銀山遺跡だけでなく、大森の町並みや景観も世界遺産に登録されているということを、事前学習で知った。大森では、その景観を守るために、自動販売機を木材で囲っているものを見つけた。僕たちのグループは龍源寺間歩に行き、そこで当時の人々の知恵や工夫を見ることができた。例えば、間歩を掘っている最中に入り口が塞がってしまわないように、木材で土を支えてあった。調べてみると、この入り口を「四つ留」と呼ぶことがわかった。この銀山学習で、石見銀山が僕たちにとって身近なものだと改めて感じることができた。石見銀山と大森の町並みを守っていくために、石見銀山の素晴らしさを他地域の人達に伝えていきたいと強く思った。
- ◇大森自主研修で、改めて世界遺産の石見銀山について考えを深めることができました。銀山とともに遺産となっている大森の町並みを見て歩き、昔の人の生活の営みを身近に感じました。また、数ある寺院や神社にもそれぞれの歴史があることを知り、そのつながりにも興味をもちました。この世界から認められた石見銀山を未来へ残し、伝えていくためにも私たち一人ひとりができることを考えていきたいと思います。大田市のシンボルとして守っていきたいです。
- ◇僕はこの自主研修で、大森という町に興味や関心がもてました。大森に世界遺産があることは知っていたけど、世界遺産に選ばれた理由やその歴史を、今回の研修で学べたので良かったです。石見銀山は大田市にとって古くから守られてきている宝のようなものなので、今の自分たちが大人になった時も、世界遺産であり続けるよう、自分たちの手で守っていきたいです。
- ◇私は銀山学習を通して自分がこれまで知っていた銀山の歴史をより深く知ることができました。それと同時に大田市にとって石見銀山が大田市の歴史の深さを証明する観光資源として大変素晴らしい価値があるということを再確認し、とても誇らしい気持ちになりました。この重要な資源を守っていくには私たち大田市民が銀山の存在を忘れないことが第一だと思います。

今年度の反省・来年度に向けて：

今年度も、前年度作成したクイズマップを使ってウオークラリーをした。慣れない大森の町で地図を頼りに自分たちでクイズの答えを探し回るのは大変だったと思うが、班のメンバーで協力し合い、案内板をしっかり読んで答えを探す姿が多く見られた。また、実際に大森の町を歩くことで、今まで見落としていたものに気づいたり、地元の方々の温かさにふれたりして、改めて故郷の良さに気づき、大田市の宝である石見銀山を守っていこうと考える生徒もいた。前年同様、目的①、③については、ある程度達成できたと思うが、目的②のために作成したクイズは一般の方に向けて発信するレベルに達しているものは少ない。今後はクイズマップという方法にこだわらず、別の発信方法を模索することも必要であると思う。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立第二中学校

1. 実施学年・人数 1年生 87名

2. 実施期間 9月～11月

3. 学習のねらい

- 石見銀山の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育てる。
- なぜ石見銀山が世界遺産になったのか、石見銀山の魅力を再発見し、発信する態度を育てる。
- 地域の人々との交流を深めながら、世界遺産に登録されてからの変化について調べ、これからの石見銀山のあり方について考えようとする態度を育てる。

4. 学習内容

- 石見銀山に関する全体像をつかむために、主な史跡を紹介するDVDを視聴する。
- 「世界遺産」「人々の暮らし」「観光客」「遺跡」「歴史」のテーマの中から班で1つ選び、テーマに沿って図書資料を利用して追究活動を行う。
- テーマに沿った現地活動を行い、課題解決のための見学や調査を行う。
- 調べたことを元に、石見銀山の魅力やこれからの石見銀山のあり方について考え、その考えをまとめ発表する。

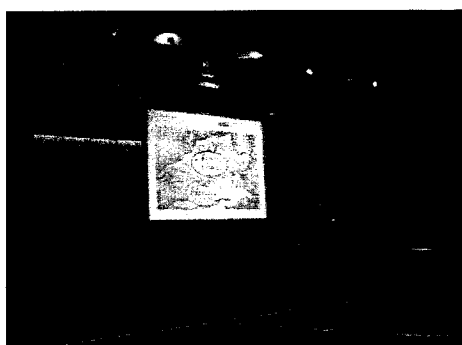
5. 学習の様子



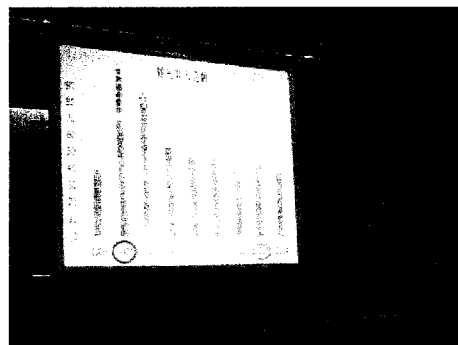
課題の設定・資料調査



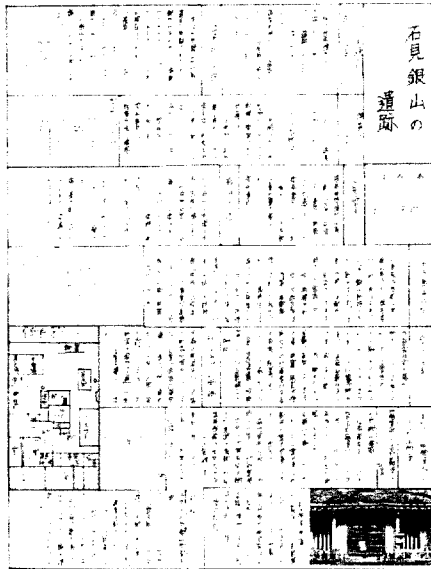
釜屋間歩周辺



文化祭・ステージ発表



文化祭・ステージ発表



銀山新聞



展示風景

6. 生徒の感想

- ・世界遺産センターでは、人々の暮らしや灰吹法などの映像や絵がたくさんあり、わかりやすかったです。昔のお金や銀の種類もたくさんあり、見学できてよかったと思います。大久保間歩には行っていないですが、実物大のモデルもあり、大きさについても実感できました。また、銀山の歴史についてのクイズなどもあり、楽しく学習することができました。
- ・大久保間歩は、気温が13℃～14℃ということがわかりました。間歩を実際に歩くことで、螺灯(らとう)を使って照らしながら作業をすすめていく大変さがわかりました。当日は大雨が降って、釜屋間歩まで歩くのも大変でしたが、たくさんのことがわかり良かったです。
- ・世界遺産センターでは、地図を使いながら分かりやすく説明していただいたので、石見銀山の歴史をしっかりと勉強することができました。また、町並み地区で観光客の方にインタビューをしてきましたが、大阪や長野・横浜そして北海道からも来られている人がいて、びっくりしました。
- ・大久保間歩は思っていたよりも広くてびっくりしました。さらに、岩を掘った間歩の跡や狭い岩場を階段状に平地にした場所などたくさん見学できて良かったです。ガイドさんもたくさん話をしていただき、いろいろなことを学ぶことができました。

7. 学習の成果と課題

- ・学校図書館資料からの情報で石見銀山についての情報・知識を得ることができ、現地では見学・調査することによって、世界遺産としての価値や魅力に気づき、ふるさとへの愛着を持つことができた。
- ・テーマに沿って課題に迫ることにより、様々な角度から石見銀山をとらえ、考えることができた。
- ・視覚に訴えるものを掲げて発表することで石見銀山の魅力をわかりやすく伝え、これからも自然や町並みを保全していこうとする意欲を高めることができた。
- ・地元の町並みと大森の町並みを比べている生徒がいたが、自分たちの地区と石見銀山との関わりを調べることも試みていきたい。

平成 27 年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数 1・2年生19名

○実施日 平成 27 年 4 月 16 日（木）

○学習のねらい

【ふるさとを知ろう】

- ・郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域、文化、技術について学習する。
- ・この地に生まれ育った一人として、地域に対しての誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

【石見銀山街道を歩く】

- ・石見銀山の沖泊街道周辺の遺跡を見学し、先人たちの活動がどのような様子であったのか理解を深める。
- ・実際に現地を歩き、世界遺産全体のおおよその規模を把握し、歴史に対する興味・関心を高める。
- ・これらの活動を協力しながらやり遂げる力を培う。

【道徳教育の観点から】

- ・地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。4－（8）
- ・日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。4－（9）
- ・公德心および社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。4－（2）
- ・互いに協力し合い、高め合い、協力をしながら好ましい友だち関係を築く。2－（3）

○実際の学習のようす

①事前学習

参加生徒 19 名のうち、1 年生 5 名、2 年生 3 名が 4 月に他県から転校してきた生徒（山村留学生）だったので、社会科の授業で DVD の視聴や事前学習用の冊子を用い、石見銀山の歴史や文化的景観などについて、その概略を学習した。

②当日の動き

◇ 8：15：まで生徒平常登校～8：40：バス学校発～9：10：銀山公園着
◇ 9：10：～徒歩～9：30：清水寺前休憩所～10：00：龍源寺間歩前通過～
～11：00：降路坂の茶店跡で休憩～11：10発～12：10：西田コミュニティーセン
ター「よずくの里」着～昼食・休憩：12：40発～13：30：松山の道標着～休憩～13:40
～13：40：松山道標バス発：～13：50：→沖泊港前トンネル前着
～13：50～14：00：徒歩沖泊まで◇14：00～14：15：沖泊の港についての説
明を聞く～14：15～14：25：徒歩～14：30：バス発→銀山公園経由～学校へ
～15：40：学校着：活動の振り返り、感想記入

③事後学習

現地を訪れて調べたこと、分かったこと、感想などを紙面にまとめたり、社会科の歴史学習の中で補っていったりした。



～ 現地を訪れて分かったこと、調べて分かったこと、感想 ～

- ・ 今年と去年と違うところを歩いて学習した。去年よりきつかったが、みんなと話しながら歩き切れたのでよかった。銀山の周辺には、まだたくさんの方が住んでいるので、すごいなあと思ったが、昔はもっとたくさんの方が住んでいたと聞いて驚いた。今日一日で銀山や周辺のことをたくさん学習できたと思った。
- ・ 2回目の銀山学習だった。去年より長い道を久しぶりに歩いたので大変だった。途中沢山の山菜を見つけた。沖泊ではガイドさんの話を聞いた。港の条件は、水深が深いこと、風が吹かないこと、波が来ないことなどたくさん条件があった。僕は昔のことなどあまり考えたことがなかったので、話を聞いて昔のことがよくわかった。
- ・ 山を歩いたことはあるけれどあんなに細い山道を歩いたのは初めてだった。昔の人はあんな山道を歩いたなんてすごいなあと思った。13 kmも歩いたことも初めてだったので足が痛くなったが、とても楽しかったし、勉強になった。
- ・ 13 kmというとても長い道のりを歩いてとても疲れた。昔の人は銀を掘るのも大変だけど、その銀を運ぶのも大変だったんだなと思った。自分はリュックだけでも大変だったので昔の人はすごいなあと改めて感じた。沖泊はとてもきれいで、広くてとてもいい港だなと思った。貿易の場として使われていてすごいなと思った。

○学習の成果と課題

実際に細く険しい山道を軽い荷物ではあるが、自分のリュックを背負い、歩いたことで、それよりはるかに重い銀を担いで歩いた昔の人たちの苦労や偉大さを実感できた。

また、感想にも表れているように、交流を深める場にもなっている。

本校では、3年生が修学旅行中に見学地を変え1、2年の2年計画で実施している。山村留学制度により、毎年のように転入生がくるため、学習の積み上げが生かされにくい面もあるが、地元生は2年間で別内容の学習をするため、銀山について様々なことを学ぶよい機会になっている。



1 実施学年・人数 第1学年・10名

2 実施時期 9～11月

3 学習のねらい

- 「石見銀山」及び地域の「街道」や街道沿いの事物について学ぶことによって、地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りを持った生徒を育てる。
- 「街道」や物流について学ぶことによって、国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」の価値を再認識し、広い視野を持った生徒を育てるとともにその価値を次代へ継承していこうとする意欲を高める。
- 課題解決学習の形式で「石見銀山」の歴史や自然を学ぶことによって、歴史や自然への関心を高めるとともに課題解決力や表現力を高める。
- 地域にある貴重な世界遺産の保全に対する意欲を高める。

4 学習内容

○事前学習

- ・小学校での既習事項の確認。
- ・地域の「街道」について知る。（講師：石見銀山課 中田健一さん 渡邊良介さん）

○「やなしお道」を歩く。（ガイド：石見銀山ガイドの会 勝部理恵子さん）

○調べ学習

- ・事前の学習や体験を元にテーマを決める。
- ・図書資料を利用して、調べる。

○発表

- ・文化祭での学習成果をステージで発表する。

○まとめ

- ・新聞記事の書き方を学ぶ。（講師：山陰中央新報社 水野幸雄さん）
- ・新聞を制作する。

5 実際の学習の様子

○銀山の歴史や銀を運んだ街道について、その歴史や役割、当時の様子などについて資料を使って説明を聞きながら学習した。

新しい情報の取得とともに、次の体験活動への意欲を高めることができた。



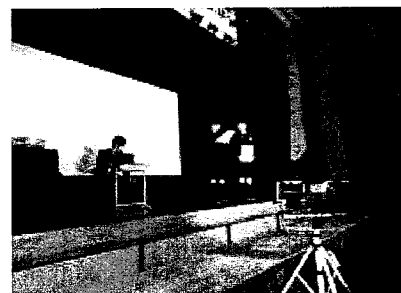
街道についての講話

○説明を聞いた街道の中で、三好を抜ける陸路「やなしお街道」を実際に歩く体験活動を行った。銀山課ガイドの会にガイドを依頼し、一緒に歩いていただきながら様々な事柄を学んだ。雨の中での活動であったため、当時の苦労が偲ばれた。



やなしお道体験活動

○体験したことやガイドの会の方のお話、資料等から学んだことを文化祭の全体発表で紹介した。実際にミニチュア版ではあるが、やなしお道と同じ方法で土を固める実験を行い、当日披露した。



文化祭ステージ発表

6 学習の成果と課題

- ・小学校で学んだ銀についてやそれをどのように運んだのか、についての学習をした。事前に銀山課の方の話を聞いた上で街道を歩いたことで、関心を高めることができ、当時の人々の苦労や思いを想像することができた。
- ・「やなしお道」を実際に歩いた後で、生徒一人一人が学習課題を設定し、調べ学習を進め、その結果を文化祭発表としてプレゼンできるよう活動した。生徒それぞれが調べた事柄を堂々と発表することができた。
- ・街道の保全に地域の人々が力を注いでいること、道は利用する人があってこそ、残されるという話を聞くことで、世界遺産を守ろうとしている人々の存在に気づくと同時に将来、どのように地域や石見銀山と関わっていくか考えることができた。

平成27年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 1年生 4名

2. 実施時期 平成27年6月～平成28年2月

3. 学習のねらい

- ・現地学習で学んだことを通して、石見銀山遺跡への理解と郷土への愛着を深める。
- ・石見銀山と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いを理解してその意義に気づき、ふるさと志学も大切にしていこうとする態度を育てる。
- ・学んだことを、今後の個人追究活動に生かす。

4. 学習内容

- | | |
|----------|---|
| ○事前学習 | ねらいや見学地について知る。疑問点などを挙げて課題を見つける。 |
| ○現地学習 | 大森周辺のフィールドワークを通して、石見銀山遺跡への理解を深めるとともに、課題について考える。 |
| ○事後学習 | 学んだことを整理したり、学んだ視点でふるさと志学について気づいたことを挙げたりする。 |
| ○個人追究活動 | 現地学習を受け、さらに調べたいことを決めて調べる。 |
| ○文化祭掲示 | 現地学習で分かったことや学んだことを模造紙にまとめて発表する。 |
| ○総合学習発表会 | 現地学習および個人追究活動で分かったことや学んだことを、小学生、保護者、地域に向けて発表する。 |

5. 実際の学習の様子

○現地学習

(大森町内)

(町並み交流センター)

(熊谷家住宅)

(城上神社)



【感想】

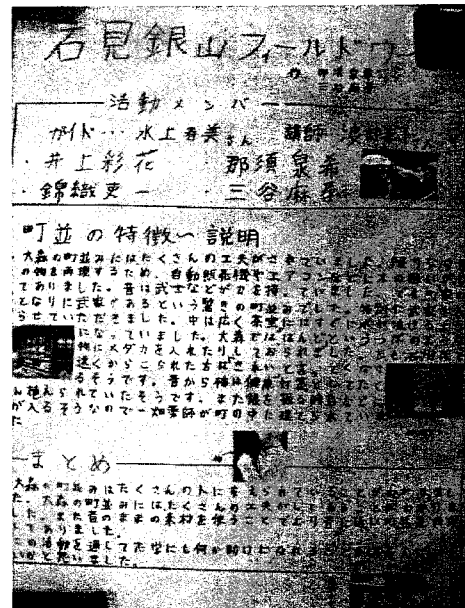
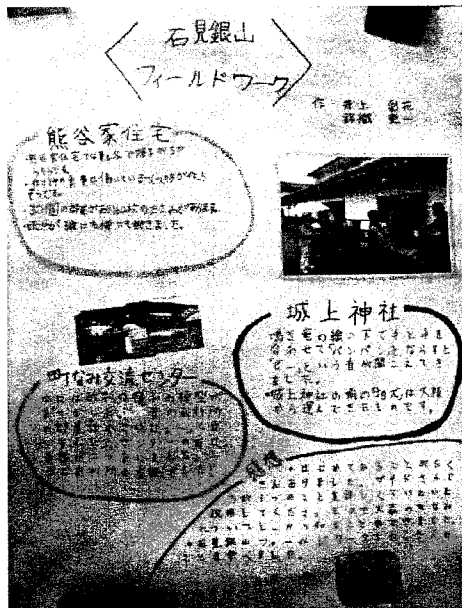
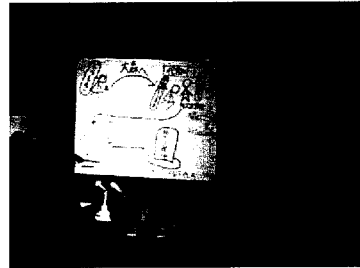
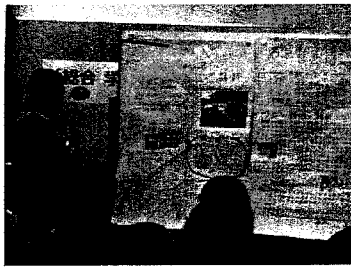
- ・大森の町は、できるだけ昔の姿を残そうと、現代のものは細かいところまで隠し、昔の物で使える物はそのまま使っていてすごいと思いました。また、保存されている建物を見て、屋根や窓もいまとは違う作りだということ、身分の違う家が隣同士ということが昔は珍しかったということに驚きました。
- ・大森の町並みでは、たくさん花が活けてあり、きれいな町づくりをしておられるのだな、と感じました。「いもむす」のことも知られて良かったです。熊谷家住宅では、部屋が30以上

もあることや、雨戸が縦にも横にも動くことに驚きました。

- ・石見銀山は、外見を統一した町並みづくりをしておられて、「私も住みたいな」と思いました。
- ・小学校の頃は、主に「間歩」に入ったり「石切り場」に行ったりしました。今回は、町並みを中心に学びました。銀山だけではなく、その周辺の町並みも昔のままに残してあることで、今と昔の違いがよく分かりました。

○「総合学習」発表会

(模造紙や実物投影機を使って発表…文化祭でも展示：写真は一部)



6. 学習の成果と課題

大森の町並みの見学を通して、世界遺産の環境保全の意義や、それを支える地域の様子について学んだ。伝統的な町並みを守る大森の町づくりに触れることで、石見銀山の歴史的・文化的価値を改めて感じるだけでなく、志学の町づくりにも目を向け、地域に愛着を持ち、地域住民として町づくりにどう取り組むか、という点についても考えを深めることができた。

本校の総合的な学習の時間は、志学地域をテーマに実施している。生徒が銀山学習で学んだことを生かして、石見銀山に対する理解を深めるとともに、ふるさと志学与銀山のつながりや、志学のまちづくりについて考える機会になるように、関連性のある現地学習を計画していく必要がある。また、小学校と連携して、既習事項をふまえた上での学習になるように再考が必要である。

平成27年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年、人数 1年生、57名

○実施時期 5月～2月

○学習のねらい

- ・石見銀山についての調べ学習や体験学習を通して、石見銀山についての知識・理解を深めるとともに、情報収集力や表現力を養う。
- ・石見銀山についての学習を通して、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

○学習内容

①小学校で学習してきたことの共有、振り返り

- ・学習期間：5月～6月
- ・内容：小学校区ごとに5～6人のグループを作り、小学校で学習した内容を模造紙にまとめ発表した。

②石見銀山調べ学習

- ・期 日：9月～2月
- ・内容：①の学習内容を参考に、更に深めたい事項の検討を行い、調査するテーマを設定した。文化祭の中間発表を経て、それぞれのテーマについて現地学習を行い、模造紙にまとめ掲示した。

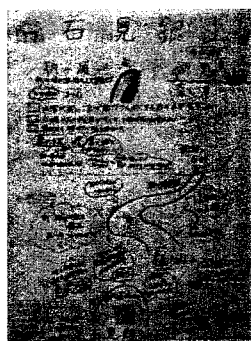
③石見銀山講演会（銀山学習のまとめ及びキャリア教育として）

- ・期 日：1月22日
- ・講 師：群言堂 松場 登美 さん

○実際の学習の様子

①小学校で学習してきたことの共有、振り返り

入学2か月後に行われる三瓶宿泊研修のプログラムの一つとして、まとめ作業を行った。学習してきた内容を振り返り、レイアウトや配置を考えながら模造紙にまとめる作業を行った。お互いの模造紙を見



学する時間を通し、再発見や気づきを共有することで、この後に続く石見銀山学習の素地を作ることができた。本活動の取り組みの様子や完成した模造紙から、生徒たちは鞆ヶ浦から石見銀山まで、または沖泊から石見銀山までの街道について、そして鉱山について（掘り方など）は十分な知識をもっていることがわかった。



②石見銀山調べ学習

9月に、①でまとめた内容から石見銀山に関するキーワードをピックアップし、改めて情報の整理を行った。作業を通し、生徒がさらに詳しく学びたいと思う内容を絞り込み、4つのテーマを設定し、それについて調べ学習を行うこととした。

<設定したテーマ>

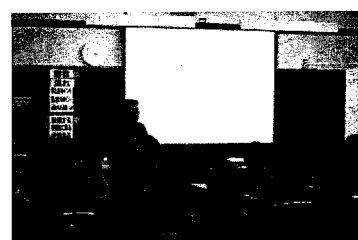
- ・世界と石見銀山つながりと、当時営まれていた生活について
- ・石見銀山に関わった人物について
- ・間歩について（大久保間歩、釜屋間歩を中心に）
- ・現在行われている石見銀山を守る活動について

現地学習では、銀山ガイドの会の方の説明、世界遺産センターでの調べ学習、観光客や地域の方々（お店で働く方やガイドの方、世界遺産センターの職員の方、石見銀山資料館職員の方など）へのインタビューを行い、各自が設定したテーマについて主体的に調べた。調べた内容はグループごとに模造紙にまとめ、掲示し、お互いの共有を図るとともに、保護者の方々にも見てもらう機会を設けた。



③石見銀山講演会

現代社会が抱える課題、地域で生きること、これからの社会で求められる力など、銀山学習の視点だけでなく、キャリア学習の視点も含めた内容の講演を聞くことができた。石見銀山に関わって生きていくことの意義について学び、生徒それぞれが自分なりの感想をもち「自分のキャリア発達を目指しつつも、石見銀山と関わって生きていく」ということについて考えることができた。



○学習の成果と課題

- ・実際に現地に行ったり、地域の方の話を聞いたりする中で、石見銀山の歴史や価値についての理解を深めるとともに将来の自分の生き方（進路）について考えることができた。
- ・調べ学習やレポート作りを通して、情報収集力や表現力を養うことができた。また、石見銀山についての幅広い情報を得ることができた。
- ・石見銀山についての学習を通して、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にしようとする態度を育てることができた。
- ・学習した内容の共有が生徒同士、保護者の範囲内でおさまってしまったが、地域の人々や観光客の方々にも何らかの方法で伝え、聞いていただけるような機会を設けると生徒にとって石見銀山がより身近なものになると思われる。

平成 27 年度 石見銀山事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年・人数 6 年生 84 名
- 2 実施時期 平成 27 年 9 月末～11 月・2 月・3 月
- 3 学習のねらい
 - 世界遺産である石見銀山遺跡について学習をすることで、ふるさと大田への誇りと愛着をもつ。
 - ひとりひとりの学習テーマを中心に、話を聞いたり、調べたり、現地学習をする中で、「石見銀山」のすばらしさを学び、発信していきたいという思いと実践力を育てる。

4 学習内容

- (1) 石見銀山とは、何か。
- (2) 石見銀山を調べよう！
- (3) 世界遺産とは、何か。



5 実際の学習の様子

- (1) 9 月末、石見銀山についての事前アンケートをとる。
- (2) パンフレット配布、『石見銀山』のビデオ視聴をする。
- (3) 10 月 1 日（木）石見銀山資料館 仲野義文館長から「石見銀山」についてのお話を聞き、石見銀山について調べたいことを考える。
- (4) ガイドの会の方と顔合わせと石見銀山で調べることをグループごとに確認する。
- (5) 10 月 20 日（火） 7 グループに分かれての現地学習を行う。

【石銀地区】 世界遺産センター ⇒ 石銀地区 ⇒ 大久保間歩 ⇔ 釜屋間歩

【銀】 大久保間歩 ⇒ 釜屋間歩 ⇒ 世界遺産センター

【銀と町】 釜屋間歩 ⇒ 大久保間歩 ⇒ 銀山公園 ⇒ 町並み ⇒ 石見銀山資料館

【町並み】 銀山公園 ⇒ 龍源寺間歩 ⇒ 銀山公園 ⇒ 町並み ⇒ 石見銀山資料館

【温泉津】 世界遺産センター ⇒ 琴が浜・鞆ヶ浦 ⇒ 沖泊 ⇒ ゆうゆう館

- (6) 24 グループ（1 グループ 3～4 人）で、発表するテーマを決め、資料を作成。

・大田市立図書館、大田小学校図書館の資料活用

・ゲストティーチャーとして、和上豊子先生、仲野義文館長を招き、学びを深めた。

(7) 11月20日(金) 参観日に、3教室にわかれて、

『すごいぞ! 石見銀山 さすが!! 世界遺産』のプレゼンテーションを行う。

1 「そうだったのか 銀争奪戦」	9 「五百体のおじぞう 五百羅漢」	17 「石見銀山はどうして 世界遺産になったか」
2 「調べたよ! 銀の性質」	10 「鞆ヶ浦と沖泊を比べよう」	18 「温泉津の町と内藤又左衛門」
3 「銀の採掘から とりだすまで」	11 「家康と秀吉の 石見銀山支配時代」	19 「銀の運び方〜尾道まで 4日! ?」
4 「らとうとらとちゃん」	12 「安原伝兵衛のお話 〜 紙芝居 〜	20 「誰? 大久保長安!」
5 「灰吹法について」	13 「銀の掘り方」	21 「鉱夫の道具と間歩の工夫」
6 「すばらしい! 龍源寺間歩」	14 「銀ができるまでの仕事 (間歩の中)	22 「銀掘名人とその技術」
7 「銀の価値と使い方」	15 「武士の仕事」	23 「井戸平左衛門の事」
8 「石見銀山大発見! 南蛮貿易編」	16 「藤田組のヒミツに せまる」	24 「熊谷家・旧河島家の つくりは?」

(8) 児童一人一人が銀山新聞をつくる。

- ・ 図書館教育部と連携し、銀山のパンフレットをもとに、要約学習を行う。
- ・ 新聞コンクールに出品後、2月の参観日に掲示。

(9) 「世界遺産 石見銀山」とユネスコの世界遺産活動の役割について学ぶ。

6 学習の成果と課題

- (1) 仲野館長さんからの話から石見銀山への関心が高まった。最初の出合わせ方が大切なことがわかった。また、現地学習は、7人のガイドの方に、興味深い話をしていただき、理解が深まった。石見銀山への学びの意欲が続いたのは、現地学習と多くの地域の方の指導によるものが大きく、石見銀山基金を有効に活用できたと思う。
- (2) 大田にはすばらしい遺跡があることを知り、ふるさと大田を誇りに思うようになってきている。そして、3学期、ユネスコの世界遺産活動と石見銀山を関連付けた授業を行った。「世界遺産 石見銀山」の価値を広げることができ、石見銀山遺跡への愛着がさらに深まった。
- (3) ガイドの会等のみなさんのお話を教員も聞き、とても勉強になった。指導する教員が石見銀山の価値などをしっかりとつかんで指導できるようになることが課題である。
- (4) また、他学年も石見銀山学習との関わりのある活動をしているので、系統的な「大田小学校 石見銀山学習計画」を作ることで、より効果的な学習が期待できると思われる。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年，人数

第6学年 31名（指導者 1名）

2. 実施時期

平成27年9月～12月

3. 学習のねらい

- ・郷土の貴重な文化・歴史遺産について学習し、十分な知識理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域・文化・技術についても学習する。そして、この地に生まれ育った一人として、世界遺産・石見銀山遺跡に対して誇りを持ち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

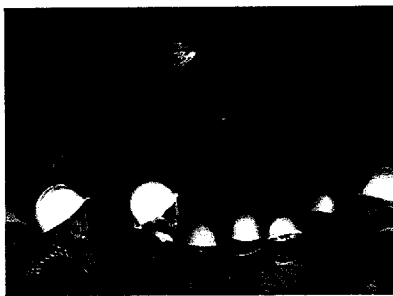
過程	主な学習活動
事前	○3人の武将（信長・秀吉・家康）と石見銀山との関係について学ぶ。（社会科） ○銀山のパンフレットを使って、世界遺産に登録された理由や歴史的価値を学び、まとめる。 ○キーワード（間歩・鉱夫の暮らし・灰吹き法など）をインターネットで調べる。 ○NHK「そのとき歴史は動いた」の『銀を制するものは天下を制する』を視聴する。
現地学習	○間歩の見学、世界遺産センターの見学・体験を通して、銀山の歴史的価値を再確認し、当時の人々の苦労を知る。 ・大久保間歩・釜屋間歩の見学 ・世界遺産センターの見学・ゆり盆体験
事後	○追究テーマを決め、調べ学習を行う。 ○世界遺産センターから配布されているビデオを視聴する。 ○調べたことや、現地学習で知ったことをまとめて、小グループごとにプレゼンテーションを行う。 ○銀山レポートを作成し、学習をまとめる（個人）

5. 実際の学習の様子

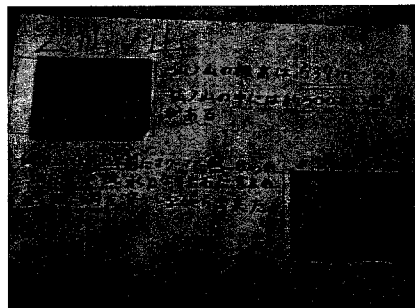
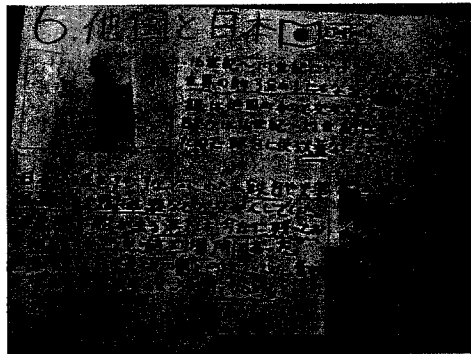
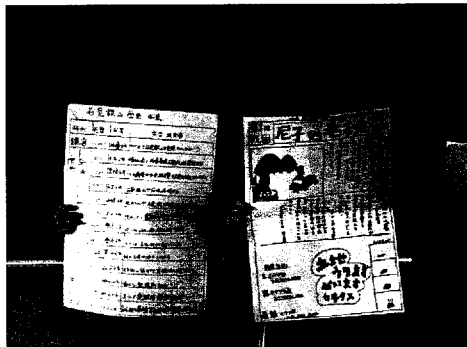
世界遺産センター見学 と ゆり盆体験



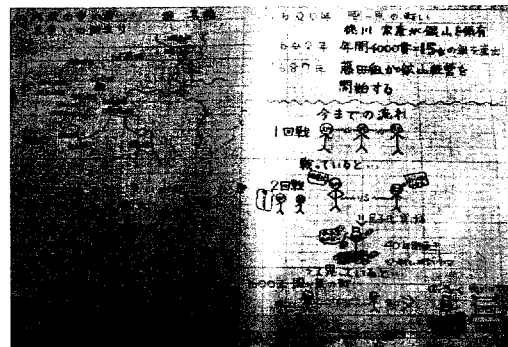
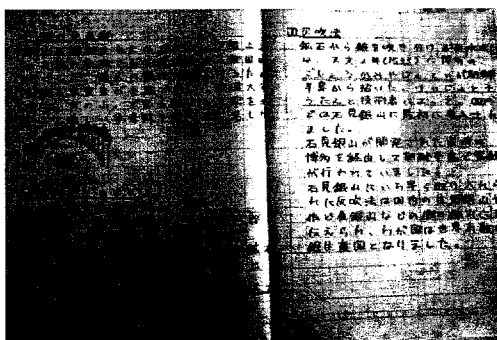
大久保間歩見学



プレゼンテーション（グループ）



銀山レポート（個人）



6. 学習の成果と課題

- 石見銀山遺跡について学習することを通して、大田市への愛着と誇りをもつことができた。
- 見学調査活動や体験活動を通して石見銀山の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる活動を通して、石見銀山の知識を増やすことができた。
- プレゼン発表をゴールとして、探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開していくことができた。

平成 27 年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数 第 5, 6 学年 12 名

○実施時期 平成 27 年 10 月～11 月

○学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学をしたり、石見銀山遺跡の資料を用いる学習をしたりして石見銀山遺跡の歴史やその価値を理解し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり体験を通して学んだりしたことをまとめ、地域へ発信する。

○学習内容

過程	主な学習活動
事前	○「発見・発信 石見銀山の魅力」(全) ・市の石見銀山課の方から石見銀山について話を聞いたり、パンフレットや DVD を見たりして、石見銀山の歴史や石見銀山の価値について知る。 ・石見銀山学習の課題を見つける。
現地学習	10 月 15 日 「石見銀山世界遺産センターで調べよう」 ・石見銀山世界遺産センターを見学したり、話を聞いたりして課題を解決する。 ・灰吹き法を見学し、当時の銀の製錬方法について理解する。 「仙ノ山を縦断してみよう」 ・大久保間歩見学、石銀地区めぐり、銀山柵内の場所の確認などより広い視野で石見銀山遺跡を理解する。
事後	・調べたり見学したりして分かったことをグループごとにまとめ、学習発表会で発表する。 ・個人の課題は、それぞれが新聞にまとめる。

○実際の学習の様子

【灰吹き実験見学】

灰吹き法の仕組みを実際に見ることによって、理解を深めることができた。



【世界遺産センター】



世界遺産センターでは、写真や模型を使って石見銀山の全体像を捉え、石見銀山の場所や大きさなど地理的な特徴について理解できた。展示物を見たり説明を聞いたりした。自分の課題についての質問や目的をもった見学ができた。

【仙ノ山の縦断】



大久保間歩の見学



釜屋間歩の見学



丁銀作り体験



学習発表会

大久保間歩、釜屋間歩、石見銀地区などを見学した。実際に間歩に入ったり、当時の暮らしや様子をガイドの会の方から教わったりすることで、事後のまとめの学習では、より興味をもって課題を追及する姿が見られた。

○児童の感想

- ・石見銀山と五十猛町が関係していることを初めて知り、とてもうれしくなった。
- ・石見銀山で行われていた灰吹き法には、五十猛町の鉛が必要不可欠だったことを知り、五十猛町が大切な所だったということが分かった。
- ・石見銀山学習をして、石見銀が世界の経済や文化の交流に大きな影響を与えたことなどがわかり、自分の住む町に世界遺産があることをほこりに思うようになった。
- ・石見銀山学習を通して、世界遺産は大切だということが分かった。これからも大事に守っていきたいと思った。
- ・石見銀山のことを何も知らなかったが、石見銀山学習を通して、石見銀山のことが少しずつ分かるようになった。そして、これからもっと石見銀山について調べたいと思った。

○学習の成果と課題（成果◎ 課題▲）

◎石見銀山世界遺産センターや現地での見学により、石見銀山の歴史・価値についての理解や興味をより深めることができた。

◎世界遺産の石見銀山遺跡を知ることを通し、郷土への誇りと愛着を深めることができた。

◎調べたことを発表する活動を通して、まとめる力や表現する力を高めることができた。

▲指導者の石見銀山遺跡に関する知識や情報が不足しているので、石見銀山学習を行うための研修が必要である。

平成27年度石見銀山基金事業石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第5・6学年 16名

2. 実施時期 平成27年10月

3. 学習のねらい

- ・郷土の貴重な文化・歴史遺産である石見銀山遺跡について学習し、遺跡についての理解を深めるとともに、地域の一員としてこの遺跡に誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- ・石見銀山遺跡についての資料を用いて調べる学習をしたり、石見銀山世界遺産センターの展示物や現地の見学をしたりして、石見銀山遺跡の歴史や価値を理解できるようにする。
- ・石見銀山世界遺産センターにおいて選鉱、砂銀採りをしたり、仙ノ山に登り大久保間歩の見学をしたりすることを通して、銀山開発に携わった当時の人々の工夫や苦勞を感じることができるようにする。

4. 学習内容

①事前学習

石見銀山について知っていること、疑問を書き出し学級全体の学習課題を確認した。
学習課題を解決するために、パンフレットや書籍、DVD を使い調べ学習を行った。

②現地学習（10月26日）

「石見銀山世界遺産センターで調べよう」

石見銀山世界遺産センターの見学をしたり、説明を受けたりして理解を深め、課題を解決した。

「選鉱や精錬について体験し学ぼう」

選鉱体験を行い、当時の鉱山技術や工夫を学んだ。灰吹き法を見学し、当時の銀の精錬方法について理解した。

「大久保間歩を見学しよう」

大久保間歩を見学し、ガイドの方の説明を聞き、江戸時代と明治期の採掘方法のちがいや採掘方法の変化、当時の銀の採掘の大変さなどを学習した。坑内の環境や生き物についても学んだ。

③事後学習

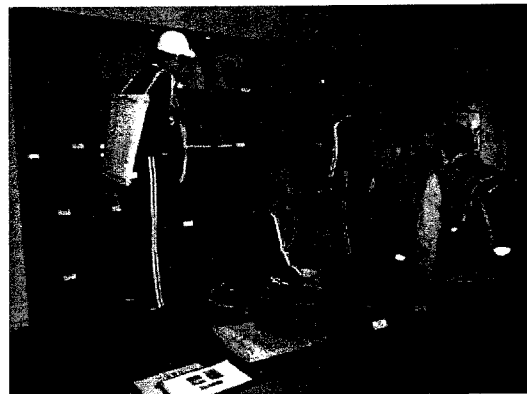
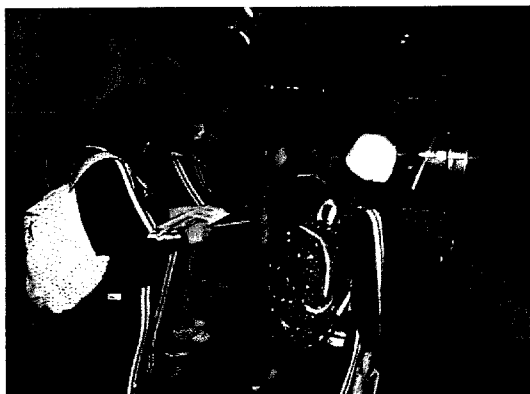
調べたり見学したりして分かったことを個人で新聞にまとめ、発表をした。

5. 実際の学習の様子

【世界遺産センター】

石見銀山が大航海時代に世界から注目されたこと、当時の世界の情勢の中で石見銀が果たした役割、戦国大名が銀山をめぐる争いを続けてきたことなどの説明を聞き、石

見銀山の歴史的価値について理解を深めた。展示物を見ながら説明を聞いたり、質問をしたりしたことが、課題の解決につながった。採掘や精錬などの作業で使う道具に関心をもつ子が多く、展示されている道具に触れ、使い方をすることで働く人の苦労や工夫を知ることができた。



【体験学習】

灰吹き法の見学では、固体であったものが高温のバーナーの火を当てることにより、色、形状が変化することを目の前で見る事ができ、先人の知恵を知ることができた。選鉱体験では、盆を揺らす角度や加減が難しくなかなか銀を手にする事ができず、大変な作業であったということを感じ取っていた。



【大久保間歩見学】

大久保間歩内の岩肌の様子、外との気温や明るさの違い、生息する生物など、体験を通して仕事場の過酷さや作業の苦労をイメージすることができた。銀山開発に携わった当時の人々の苦労や工夫を感じることができた。

6. 学習の成果と課題 (◎成果 △課題)

- ◎ 石見銀山世界遺産センターや大久保間歩とその周辺の見学と解説により、石見銀山の歴史・価値について興味を持って学習に取り組み、実感を伴った理解ができた。
- ◎ 石見銀山遺跡についての学習を通して、そのすばらしさを改めて感じ、郷土への誇りと愛着をもつことができた。
- △ 指導者が、石見銀山学習を構成する上での教材選びや資料づくりを充実させていく必要がある。静間の地域と石見銀山の関連を知ることによって子どもたちは石見銀山をより身近に感じられると考える。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数

第6学年 12名（指導者 2名）

2. 実施時期

平成27年7月～11月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	・パンフレットやDVDなどの資料から、石見銀山遺跡について調べる。 ・現地学習での課題を見つける。
現地学習	・石見銀山世界遺産センターで説明を聞いたり、見学したりして、課題を解決する。 ・「選鉱、砂銀採り」の体験活動、灰吹法実演見学、大久保間歩・釜屋間歩見学（間歩体験）を通して鉱脈の様子や掘り方、作業の工夫や苦勞について理解を深める。
事後	・調べたり見学したりしてわかったことをまとめる。 ・まとめたことを発表する。

5. 実際の学習の様子



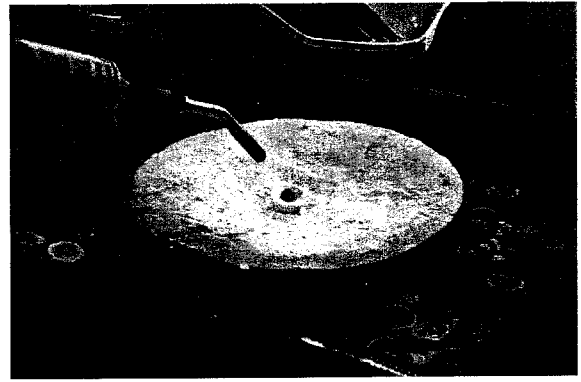
事前学習（講師：仲野先生）



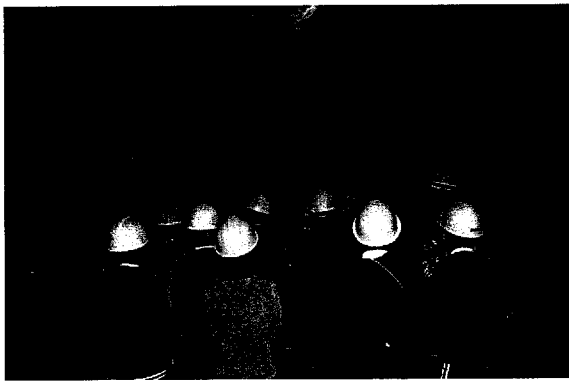
世界遺産センター見学



比重選鉱（ゆり盆体験）



灰吹法実験



釜屋間歩見学



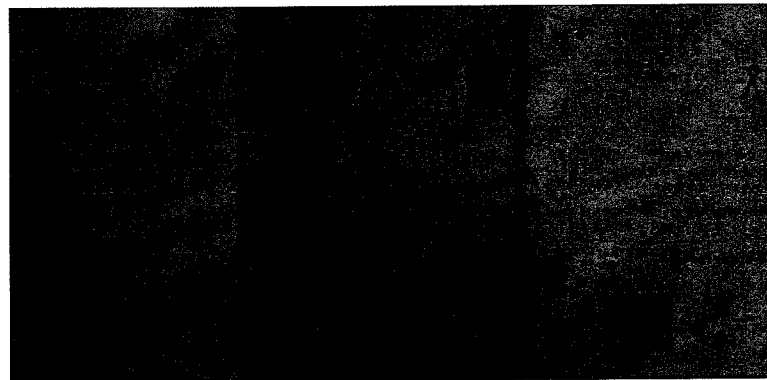
大久保間歩見学

まとめ

（発表資料の一部）

6. 学習の成果と課題

- ・石見銀山についての興味関心を高めるとともに、石見銀山の歴史や価値について理解を深めることができた。
- ・体験活動や遺跡見学を通して、さらに理解を深めることができた。
- ・世界遺産の一つである石見銀山遺跡がある郷土、大田市への誇りと愛着の心情を培うことができた。
- ・石見銀山学習を通して、総合的な学習の時間における探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開していくことができた。



平成 27 年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年・33名

2. 実施時期 9月～11月

3. 学習のねらい

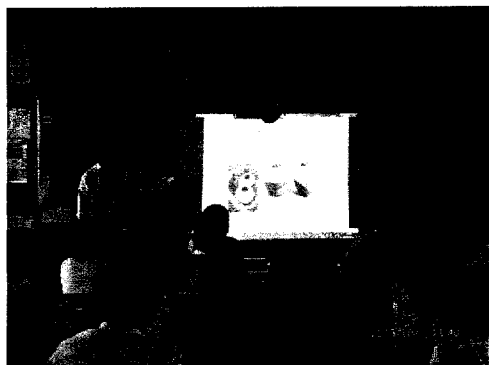
- 石見銀山についての新たな知識を習得することで、世界遺産に対する意識を高め、郷土への誇りと愛着をもつ。
- 見学や体験活動を通して石見銀山に対する興味関心を深める。
- 石見銀山学習の成果を発表することで、今後の保護・保存・活用への意欲を高める。

4. 学習内容

- 郷土の貴重な文化、石見銀山遺産について学習し、十分な知識、理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域、文化、技術についても学習する。
- 社会科の歴史学習を発展させて、戦国大名の石見銀山争奪戦について学習する。さらに、DVDを活用し、石見銀山の概要を学び興味関心を深める。
- 各自石見銀山についての課題を設定し、図書資料、パソコンなどを利用し追求活動を行う。さらに、現地見学と体験活動を通し、課題意識をもって見学することでその価値に気づき、誇りと愛着の気持ちを育てる。そして、その成果をまとめ発表することで、知識と理解を確かなものにしていく。

5. 実際の学習の様子

- 戦国大名の銀山争奪戦学習（9月）
- DVD視聴による石見銀山概要学習（9月）
【知ろう！探ろう！石見銀山】
- ホームページと図書館資料による課題学習（10月）
- 銀山資料館の方を招き、お話を聞く。（10月）



○現地学習（10月22日）

【世界遺産センター展示室見学】…児童の感想

- ・灰吹き法など銀を取り出す過程がよく分かりました。
- ・戦国武将や銀鉱石の掘り方と灰吹法について、展示物を見て分かったのがよかったです。

【丁銀作り体験活動】…児童の感想

- ・丁銀を作ってみて、石見銀山について興味を持つことができました。



【大久保間歩などの見学】…児童の感想

- ・大久保間歩に入ってみると、思ったよりも暗くて、ライトを消すと何も見えなかったです。昔の人が銀を見つけるために懸命だったことがよく分かりました。
- ・大久保間歩に入ると、人の手によって彫られたのみの跡がたくさんあってびっくりしました。手の届かないような高い所までもほって銀を見つけていました。
- ・坑道の中は真っ暗でした。らとうという道具の明かりを手がかりに作業していました。光はわずかで、この中で作業するのはすごいことだと思いました。



6. 学習の成果と課題

○石見銀山学習を通して、世界遺産に対する意識を高め、郷土への誇りと愛着を持つことができた。

○大久保間歩などの見学や丁銀体験活動を通して、石見銀山に対する興味関心を深め、世界遺産の範囲や銀鉱石の採掘方法、灰吹法による銀の製錬など、資料から読み取ったことの理解を深めることができた。

○児童の課題解決型の学習としたかったが、資料を読み取ることが難しく、内容を理解していくことが精一杯となった。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 20名

○実施時期

平成27年 10月～11月

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分で設定した課題について、体験活動や調べ学習を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過 程	主な学習活動
事前学習	○学習のテーマを決めよう ・図書やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知る。
現地学習	○世界遺産センターで調べよう ・ガイドの方の話を聞く。 ・センター内を見学し調べる。 ・調べても分からなかったことを質問する。 ・灰吹き法を見学する。 ・丁銀作りを体験する。 ○大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう ・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。 ・ガイドの方に質問する。 ○富山の要害山を見学しよう ・地域の方にガイドしていただき見学する。 ○長福寺（波根）を見学しよう ・毛利元就ゆかりの品を見せてもらう。
事後学習	○石見銀山について分かったことをまとめよう。 ・調べたことを新聞にまとめる。 ・新聞コンクールに応募する。 ・学習発表会で銀山学習の内容を取り入れた発表をする。

○実際の学習の様子



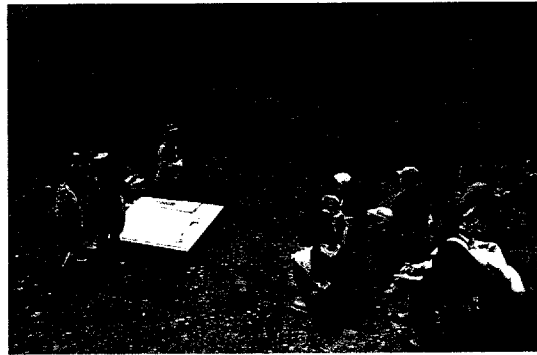
【世界遺産センター展示見学】



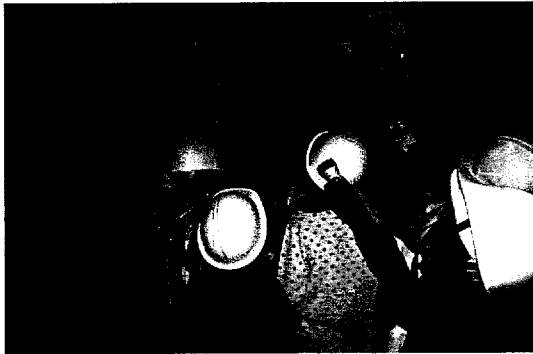
【世界遺産センター灰吹き法見学】



【世界遺産センター丁銀作り体験】



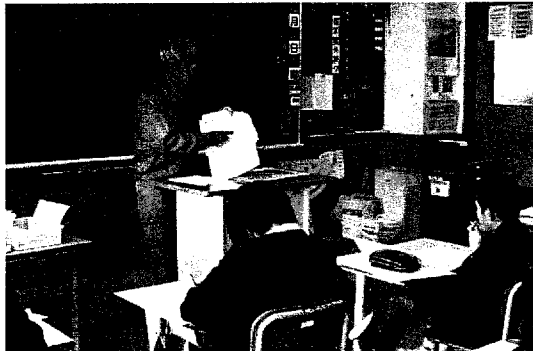
【釜屋間歩見学】



【大久保間歩見学】



【富山の要害山見学】



【富山の要害山についてのお話を聞く】



【長福寺の見学】

○学習の成果と課題

- ・世界遺産となった石見銀山遺跡のすばらしさへの理解を深め、大田の歴史や文化、自然への関心を高め、ふるさとを大切にしていこうとする気持ちを育てることができた。
- ・石見銀山遺跡の調査を通し、調査活動の技能を高められた。
- ・校区内の遺跡や遺物の見学を行ったことで、児童がふるさとと石見銀山との関わりの理解を深め、石見銀山遺跡をより身近なものとして感じる事ができた。
- ・世界遺産センターでの体験学習により、作業の工程を体験的に学び、銀を取り出し、加工する知恵について共感的に理解することができた。

大田市4班連合小学校
(池田・北三瓶・志学)

平成27年度大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 4班連合5・6年生 18名

2 実施時期 平成27年7月8日(現地学習)

3 学習のねらい

- (1) 石見銀山遺跡の現地見学等を通して、銀山の価値や歴史について学ぶ。
- (2) 銀山遺跡を守る活動をしている諸団体の活動を知る。
- (3) 3校の児童が共に活動や学習をすることを通し、集団行動や協力の大切さを学ぶとともに親睦を深める。

4 学習内容

- ・大久保間歩、釜屋間歩、石銀集落跡の見学
- ・世界遺産センターの展示観覧と丁銀作り
- ・中国地方にある世界遺産の学習

5 実際の学習の様子

- (1) 4班連合修学旅行「世界遺産の原爆ドーム・厳島神社を訪ねよう」
 - ・6年生は、修学旅行で訪ねた世界遺産(原爆ドーム・厳島神社)の価値についてまとめ、修学旅行報告会で発表した。
 - ・5年生は、各校で行った修学旅行報告会での6年生の発表を聞き、広島にある2つの世界遺産について知るとともに、ふるさと大田市にある世界遺産・石見銀山についての関心を高めた。
 - ・5・6年生ともにパンフレットやDVDから石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知り、各校や各自の課題を見つけた。
- (2) 大久保間歩釜屋間歩石銀集落跡を見学しよう
 - ・本谷から大久保間歩～釜屋間歩～石銀集落跡～展望台～世界遺産センターと歩き、往時の暮らしや作業について想像を膨らませた。



- ・ 実際の間歩を見学し、そのスケールの大きさを実感するとともに、石見銀山ガイドの会のガイドの説明により当時の発掘の工夫や苦勞を知った。
- (3) 石見銀山世界遺産センターで調べよう
 - ・ 各校や各自の課題についてセンターの見学を通して調べ、課題解決を図った。
- (4) 丁銀を作ろう
 - ・ 体験活動としてセンター職員の指導のもと丁銀を作った。
- (5) 世界遺産「石見銀山」の素晴らしさをまとめよう。
 - ・ これまでの学習を新聞にまとめ、世界遺産センターに掲示してもらった。一般の来場者への興味づけや啓発を図った。
 - ・ 一人一人が作成した『石見銀山新聞』を5・6年合同学習で発表し合い、学習成果を交流した。
- (6) 古代出雲歴史博物館で石見銀山について学ぼう
 - ・ 収蔵品である本物の丁銀に触らせてもらい、銀山学習で訪れた温泉津地区（H26 年度）、大森地区（H27 年度）での学習を思い出しながら、その質感に当時に思いを馳せていた。



丁銀作り体験



『石見銀山新聞』の発表



丁銀に触れて何を思う…

6 学習の成果と課題

- (1) 現地見学やフィールドワークにより、石見銀山の往時の暮らしについて体感することができた。
- (2) 銀山学習を各校の社会科や総合的な学習の時間、古代出雲歴史博物館見学との関連等につなげることができた。
- (3) 新聞形式にまとめ、世界遺産センターに掲示したことで、学習意欲が増すとともに、来場者にも学習成果を広く知ってもらうことができた。
- (4) 三瓶周辺3校の児童の親睦と連帯感を深めることができた。
- (5) 家庭で自主的に石見銀山を訪問したり、銀山関連のイベントに参加したりして、ふるさと大田への愛着を深めることができた。
- (6) 昨年度温泉津地区を見学した6年生は、今年度大森地区を見学したことで世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習できた。5年生は、来年度温泉津へ行く予定であり、複式校の良さが実感できると期待する。

平成27年度石見銀山事業 石見銀山学習の概要

○ 実施学年、人数 第6学年 12名

○ 実施時期 平成27年11月

○ 学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学を通して、石見銀山の価値を知り、ふるさとへの愛着と誇りを持つ。
- ・自らの課題について体験を通して学んだことを生かし、まとめ、発信する。

○ 学習内容

6年生「知ろう！探ろう！石見銀山」(10時間)

【事前学習】

- ・パンフレットやDVDをもとに石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知る。
- ・現地学習で調べる課題を見つける。

【現地学習】

「石見銀山世界遺産センターで調べよう」

- ・石見銀山についての疑問について質問したり、見学したりすることで課題を解決する。
- ・当時の世界経済をも動かしていたのが石見銀山の銀であることをつかむ。

「大久保間歩見学」

- ・江戸時代と明治期の採掘方法のちがいや、採掘方法の進化、佐渡金山とのちがいなどを学習する。

○ 実際の学習の様子

学習終了後の児童の感想より(抜粋)

- ・石見銀山は、今までよく知らないことがたくさんあったけど、今回たくさん分かって良かったです。文化的景観を守るために、大森の町の人たちが努力していてすごいなあと思いました。石見銀山はすごいところだと分かったので、大切にしたいと思いました。
- ・石見銀山に行って、学校では分からないこと、知りたいことが分かって良かったです。これからも、私たちの世界遺産を、私たちの手で守り、後の人たちにも、石見銀山を大切にしていってほしいです。ずっと緑豊かな石見銀山にしていきたいです。家族にも、おじいちゃん、おばあちゃん、その他の人、日本全国の人々にも、石見銀山のよさを知ってもらいたいと思いました。
- ・石見銀山は、「銀が取れるところ」しか知らなかったけど、ヨーロッパでも有名だったことがびっくりしました。灰吹法という銀を取り出す方法を見られたので良かったです。

- ・江戸時代にほられたところを見ると、縦が1mくらいしかなかったので、昔の人はほり進んでいくのがとても大変だということが分かりました。木をはさんだだけのはしごや、穴があいているだけの階段があったので、大変だなと思いました。知らなかったことをたくさん知ることができて良かったです。

「石見銀山世界遺産センターで調べよう」



「灰吹法見学」



「大久保間歩見学」



「町並み見学」



○ 学習の成果と課題 (◎成果 △課題)

◎採掘方法の変化、灰吹法による精錬、銀の輸送方法やルート、銀の世界での流通などの知識の習得ができた。灰吹法については、実演を間近に見て理解することができた。

◎間歩見学等を通した現地学習により、体験的理解が促進でき、興味関心が高まった。

◎石見銀山ガイドの方のわかりやすく熱心な説明のおかげもあり、石見銀山の歴史的・文化的価値の認識と郷土への誇りと愛着が醸成され、ふるさとのすばらしさが再認識できた。

△世界遺産をより明確にする上では、銀山街道(城址、温泉津港など)の見学も必要であると思われるが、時間的にも費用の面からも計画することができなかった。

△雨天で釜屋間歩見学を取り止めたため、岩盤遺坑や路頭堀跡を間近に見て感じることはできなかった。その代わり、灰吹法の実演の見学ができた。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- ### 3. 学習のねらい

- ・ 石見銀山の歴史や現存している遺跡に興味をもち、意欲的に調べることができる。
- ・ 遺跡（間歩など）や世界遺産センターの見学等を通し、銀生産が盛んだった頃の石見銀山の生活の様子や石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めることができる。
- ・ 自分の課題解決に必要な資料や情報をさがし、分かりやすくまとめることができる。

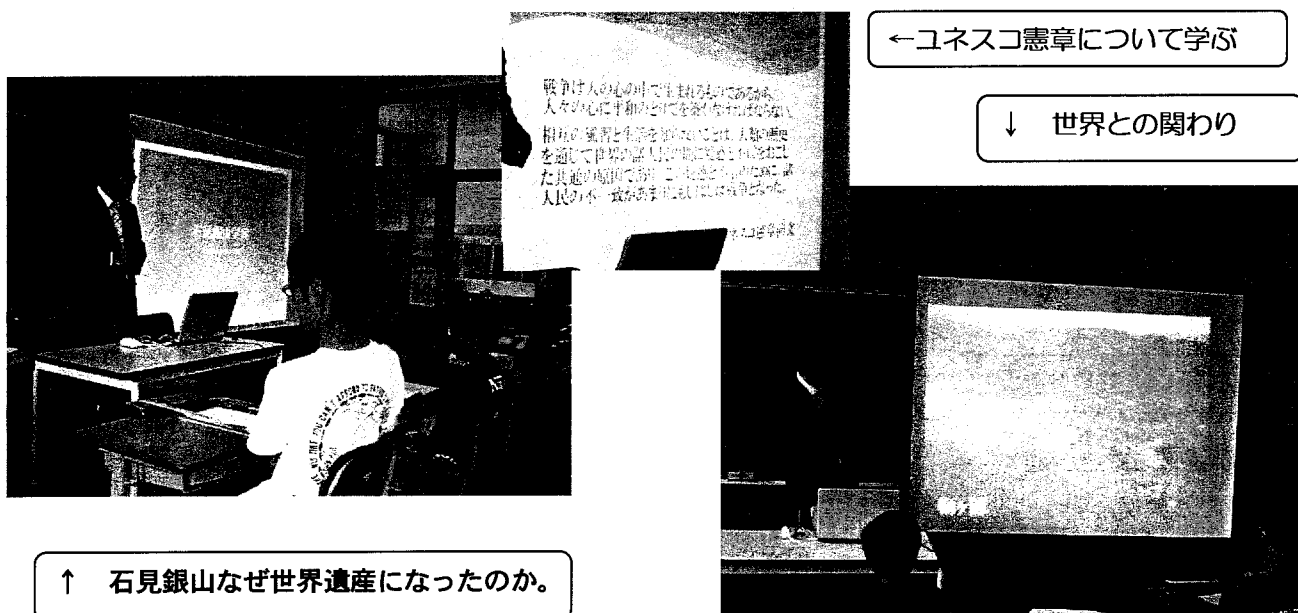
4. 學習內容

過程	主な学習活動
事前	石見銀山について知ろう ・DVDや図書館の本,パンフレット等から,石見銀山遺跡の歴史や価値について知る。 ・資料館館長さんのお話を聞き,自分たちの住んでいる町も石見銀山繁栄と関わりがあることを知る。 ・現地学習での課題を見つける。
現地学習	・大久保間歩・釜屋間歩・仙の山の見学や清水谷精錬所の見学を行い,当時掘られていた様子や選の山での暮らしの様子などを知り,さらに詳しく調査する。 ・石見銀山世界遺産センターでゆり盆体験をしたり,灰吹きの見学をしたりして,銀の取り出し方を知る。さらに,見学や質疑を通して課題を解決する。 ・町並みを見学し,町並みを保存しようと尽力しておられる方の存在と努力を知る。
事後	・学んだことをもとに台本を作り,発表会で地域に発信する。 ・資料および見学や体験学習で学んだこと,さらに自分自身で調べたことなどをまとめ,発表する。

5. 実際の学習の様子

- ①石見銀山資料館館長さんのお話を聞く。

現地学習の前に、資料館館長さんより、「世界遺産とはどういうものか」「石見銀山の歴史」「石見銀山と世界の国々」「石見銀山と久利町・大屋町」についてお話を聞いた。基礎的な知識を得ることができた。



②大久保間歩・釜屋間歩・仙の山の見学

実際に間歩の中を歩いたり,銀山での暮らしぶりなどの説明を聞いたりして,当時掘られていた様子や携わっていた人々の苦労・工夫などを実感した。



← 当時の暮らしについて



← 採掘の様子を聞く。

③世界遺産センター・町並みの見学

ゆり盆体験や灰吹き法実験の見学をし,銀の取り出し方法を体験することができた。また,今まで資料を通して捉えていた石見銀山の価値を,詳しい説明を聞きながら展示物を見ることで,銀山全体の広さや歴史的価値を再確認し整理して理解することができた。

実際に間歩の中を歩き,町並みを保存するための工夫や取組を知ることで,自分たちもふるさと大田を大切にしていこうとする気持ちが芽生えた。



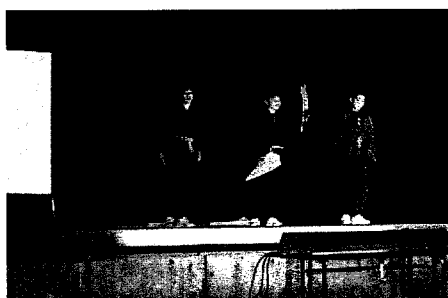
← 銀の取り出し方



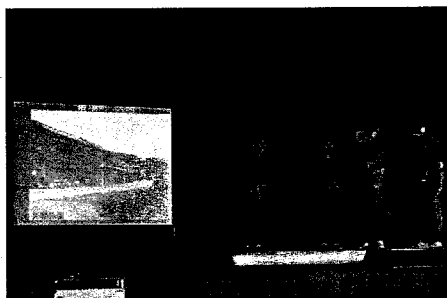
← ゆり盆で銀を取り出す。

④銀山学習のまとめと発表会

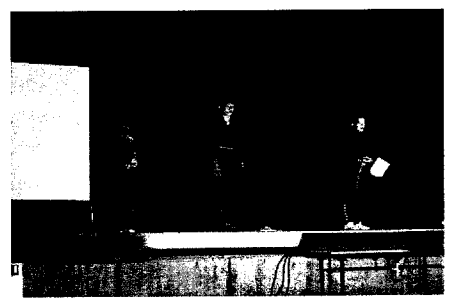
発表会で石見銀山学習の成果を発表するとともに,地域へ発信することができた。



鉄を使った道具を使っている



大田から大森へ行く途中の宿場町・久利町



名代官・天野助治郎

6. 学習の成果と課題

- ・なぜ大切なのか自分なりに考え,これからどう関わっていくか考えることができた。
- ・石見銀山と久利町・大屋町との関わりを調べることで,支え合って生活していることを知り,郷土に対する愛着を深めることができた。
- ・石見銀山学習を通して,総合的な学習の時間における探求的な学習を展開することができた。

平成27年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 5・6年生中心に学習しながら、1年生～6年生19名が参加

2. 実施時期 5月～2月

3. 学習のねらい

- 前年高山小より好評をいただいた子どもガイド活動について、さらにより活動となるよう工夫することで、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てることができる。
- 大森の銀山地区や石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育むことができる。
- 発見・収集した情報を処理しまとめる活動をしたり、わかりやすく伝える活動をしたりすることを通して、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

4. 学習内容

(1) 『銀山子どもガイドプロジェクトⅣ』

今年度のガイド活動は、エリアを銀山地区から選んで挑戦した（昨年度は町並み地区選択）。そして、昨年度に続きガイド対象を高山小学校3・4年生児童として、準備を進めていくことにした。ふるさとの再発見や様々な人との関わり方を学んだ学習である。

(2) 『大森すてき、再発見』

子どもたちは“石見銀山遺跡愛護少年団活動”を通して、史跡や文化財を愛護する気持ちを高め、美しい町づくりに参画している。そこで、大森の町をもう一度振り返り、石見銀山の魅力を再認識するとともに、ふるさとへの誇りと愛着を育んだ学習である。また、今年度は1・2年生も町探検をして、大森のすてきな場所を伝える学習も行った。

(3) 『地域の方、多くの方へ情報発信』

HPを利用して大森小から発信したり、世界遺産学習全国サミットや地域の交流センターにおいて開催された学習発表会で、子どもガイド活動の様子や大森の町の魅力について、地域住民に情報発信した活動である。

5. 実際の学習の様子

(1) 『銀山子どもガイドプロジェクトⅣ』

①「遠足（仙の山に登ってみよう!）」

学校の目の前にそびえ立つ、仙の山。かつては、たくさんの銀が出た場所である。ガイドの方に説明してもらいながら、間歩や鉱脈の後だけでなく、全盛期の時代に繁栄した住居跡なども見る事ができた。

②「銀山地区オリジナルガイドを考えよう」

銀山地区を歩き、銀山カルタに載っている場所や、高山小の友達に紹介したい場所を探したり確認したりした。本やインターネットで調べたことも加えながら、ガイド対象者のことを考え、分かりやすい説明となるよう図を加えたり、クイズ形式にしたりして、ガイドの内容を考えることができた。調べて疑問に思ったことは、資料館の館長・仲野先生に来ていただき、内容を深めることもできた。



③「子どもガイド活動のリハーサルをしよう」

フレックス参観日の機会に、保護者や地域の方にガイドの様子を見てアドバイスをもらい、言葉などの修正を行った。また、現地でのリハーサルも行い、説明場所や見てもらうものの確認等をした。



④「高山小学校の人にガイドをしよう」

高山小学校の3、4年生を対象に、3グループに分かれ、それぞれがガイド活動を行った。



(2)『大森すてき 再発見』

①「ぼくたちの町」(1・2年生)

町探検をする中で、おいしい『げたのは』のお店や龍源寺間歩など、今まで見たことはあったけど詳しくは知らなかったことについて、実際に çıkかけて尋ねてみて、新たな発見ができた。



②「天領祭り(大森会場)について」(3・4年生)

地元の祭りを調べようと、天領祭りの日に会場へ出かけて、天領祭りについて、疑問に思っていることをインタビューした。毎年、『子ども落語』に参加しているが、改めて地域の方達の願いや思いを感じることができた。



③「愛されつつける大森に」(5・6年)

観光客の方に、アンケートを実施したことをもとに、我が町がどのように発展していくべきかについて考えることで、自分たちの気づかなかった大森の魅力について気づくことができた。また、課題も見つけ、その解決方法について考察することができた。



(3)『地域の方、多くの方へ情発信』

①「世界遺産学習全国サミット」

福岡県大牟田市で行われた“世界遺産学習全国サミット”で大森小学校の銀山学習や石見銀山遺跡愛護少年団活動に関わる内容を発表した。



②「大森っ子発表会」

地域の交流センターを会場に、ガイド活動の様子や大森の町並み保存、さらに大森をよりよくするための方策などを地域住民に発信することができた。



③「HPで、子どもガイドをクリック」

子どもガイド学習で紹介したスポットについて、大森小学校のHPをひらいて銀山カルタをクリックすると動画を見ることができるようにしてある。

【大森っ子発表会・お客さんの感想】

各学級の学習発表は、大森の町のこと、人々との関わりの様子がよく分かりよかったです。子どもたちの学習してきた姿や、町の様子がよく伝わってきました。

6. 学習の成果と課題

- 子どもの視点に立って、地域の方々の力も借りながら、それぞれの学習を展開したことで、子どもたちは改めて石見銀山・大森の価値について学び、郷土のすばらしさを再認識し、郷土を愛する気持ちを強くすることができた。
- 子どもたちには、未来へと守り伝えていかねばならない使命感や意識をさらに高め、主体的・意欲的に実践活動に取り組んでいけるよう支援していきたいと考えている。

平成27年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年、人数

第1・2学年 14名

○実施時期

平成27年10月～28年1月

○学習のねらい

- ・ 大森小との集合学習を通して大森町及び石見銀山についての郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、その歴史や価値について知ること、ふるさとに愛情と誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- ・ 低学年は、生活科の学習として龍源寺間歩まで歩き、自然に触れ、間歩を採検することでふるさとのよさに気づき、一人ひとりが自分なりに学習したことをまとめて発信する。

○学習内容

＜事前学習＞

- ・ 大森町及び石見銀山についてのクイズを考える。

＜現地学習＞

- ・ 大森小を出発し、新切間歩から龍源寺間歩まで歩きながら、秋をたくさん見つける。
- ・ 龍源寺間歩を見学し、間歩の中の様子を学習する。

＜事後学習＞

- ・ 体験したことや採取したものをまとめ、学習発表会で地域や保護者の方の前で発表する。

○実際の学習の様子

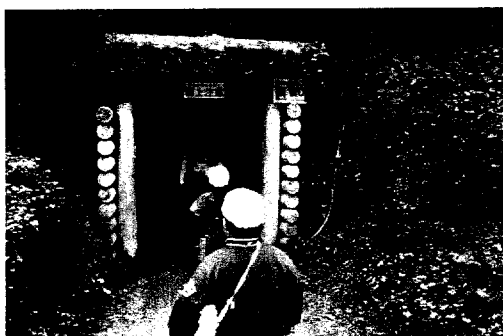
＜現地学習＞



新切間歩前の公園で大森小の児童からクイズを出してもらい、それに答えた。



龍源寺間歩の中を見学し、間歩の中の様子について学習した。



【児童感想】

間歩が、27個もあって、番号がつけてあって、すごいなあと思いました。

数えきれないほどの間歩がありました。りゅうげんじ間歩につくと、チケットをもらってトンネルに入りました。トンネルの中は、むかしの人たちがほったあながたくさんありました。トンネルはすづくながかったです。

大森たんけんで、いろいろなもんだいを作ってくれてありがとう。大森のことがたくさんわかりました。もんだいにこたえたら、メダルがもらえたのでよかったです。秋もたくさん見つけました。

いっしょに間歩に入れてよかったです。と中、大森についていろいろ教えてくれてありがとう。本もののぎんにもさわれてよかったです。

<事後学習>

探検で知ったことをまとめ、学習発表会で「聞いて聞いて町のすてき」と題してクイズにして地域や保護者の方に発表しました。

【児童感想】

間歩の数をおしえてあげることができてうれしかったです。

しんきり間歩のばしょに、ぎん山小学校があったとわかりました。

くぎとハンマーで一日に30cmしかほれなかったとはびっくりしたら、みんながおどろいていました。大へんだっただろうと思いました。

お母さんのしらないことをおしえてあげることができてうれしかったです。また、大森に行きたいです。高山小にも来てほしいです。



○学習の成果と課題

- ・石見銀山のすばらしさを知ること、ふるさとを愛する心をそだてることができた。
- ・体験を通して、大森町と石見銀山のよさを感じることができた。
- ・大森小の友だちと協力して活動することで、交流のよさを味わうことができた。
- ・体験や学習したことをまとめ、発表することを通して、表現力を高めることができた。

1 実施学年、人数 第6学年 19名、第5学年 15名、第4学年 16名

2 実施時期 平成27年7月～平成28年3月

3 学習のねらい

- ・温泉津町や大森町での現地学習を通して、石見銀山と温泉津町との関わりを学ぶ。
- ・温泉津町民への取材活動を通して、町の現状を知り、今後の温泉津町についてのあり方を考え、ふるさとに対する愛着を育てる。

4 学習内容

	4 年	5 年	6 年
単元名	大切にしよう！ みんなの地球	福光石について調べよう	石見銀山について調べよう
学習内容	<u>○現地学習</u> ・井戸平左衛門の行いやその時代の飢饉について知る。 ・大森代官所や温泉津町内の石碑を調べる。 <u>○課題設定・追究</u> ・現代の飢饉にはどのようなものがあるのかを知る。 ・それらから課題設定する。 <u>○まとめ</u> ・自然災害を防ぐための取組を考え、実践する。 ・発表・振り返りをする。	<u>○現地学習</u> ・石切り場を見学し、どのように採石されているか学ぶ。 ・高野寺を見学し、福光石の用途を知る。 <u>○課題設定・追究</u> ・見学をもとに課題を設定し、調べる。 ・ふるさとと自分とのかかわり方について考える。 <u>○まとめ</u> ・冊子にまとめる。	<u>○課題設定</u> ・パンフレットや DVD から石見銀山について理解する。 <u>温泉津町の町並み周辺見学</u> <u>龍之御前神社、恵瑠寺、金剛院、愛宕山、西念寺、往還道</u> ・温泉津の町には多くの福光石が使われていることを学ぶ。 ・温泉津が世界遺産になっている理由や、町並みの様子、往還道の様子を見て学ぶ。 ・それらから課題設定する。 <u>○課題追究</u> ・世界遺産の環境保全について考える。(筑波大学大学院教授との学習) <u>大森町の町並み見学(石見銀山資料館学芸員との学習)</u> <u>石見銀山資料館、城上神社、東照宮、青山家、観世音寺、旧河島家、五百羅漢、豊栄神社、龍源寺間歩、佐毘売山神社、大久保石見守墓所</u> ・温泉津町と石見銀山との関わりについて知る。 ・温泉津の町並みとの違い、武士と商人の暮らしの違いを知る。 ・当時の銀生産の様子を知る。 ・環境保全について考えたことを実践する。(海岸清掃) <u>温泉津町取材活動(温泉津町民、観光客対象)</u> ・住民や観光客の温泉津町に対する思いを知り、ま

			とめの学習に生かす。 ○まとめ ・学習発表会で発表する。 ・パンフレット等を作成後、外部施設等に展示する。
--	--	--	--

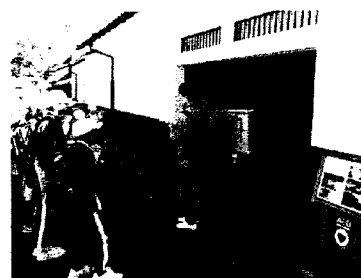
5 実際の学習の様子（第6学年）



事前学習 筑波大学大学院教授との学習



現地学習 温泉津町にて



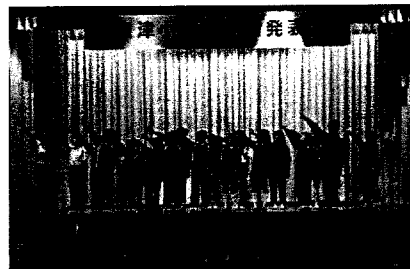
現地学習 大森 藤原学芸員と



現地学習 温泉津にて取材活動



現地学習 海岸清掃



事後学習 学習発表会での発表

6 学習の成果と課題

【6年】

- 石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味が理解できた。
- 温泉津町や石見銀山を守っていききたいと思う児童、誇りに感じる児童が増えた。
- 筑波大学大学院教授との学習や大森見学を通して、住民の力で世界遺産を守っていくことの大切さを学び、実際の活動に取り組んだ。
- 温泉津町民や観光客へのインタビューを通して、様々な考えの人がいることを知り、これからの温泉津町を考えていくよい機会になった。
- △児童の考えや提案を温泉津町民に見てもらおうよう展示を行った。感想はあったものの少数で、町民の意識を高めていく必要がある。

【5年】

- 福光石の特徴や他の石と比べた時の特性を知り、地域の特産品に対する誇りを高めることができた。
- 福光石が古くから採掘されていることから、歴史に関する興味が高まった。
- 福光石を高野寺や石見銀山まで人力で運んでいたこと、銀山では石造物の8割が福光石だということを教えていただき、石見銀山に行って、実際に見てみたいという気持ちが高まった。

【4年】

- 世界で起こっている飢饉に興味を持ち、地球の一員としてできることを考え、実践することができた。（水を大切に使う、残さず食べる、電気をこまめに消す等）
- 自然環境の悪化によって起こる飢饉があることを知り、より環境に対する関心が高まった。
- 飢饉が起こっている国の子どもが学校へ通えない現状から、援助のシステムを学んだ。

平成27年度 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第4学年・第5学年・第6学年 86名
2. 実施時期 平成27年6月～平成28年2月
3. 学習のねらい
 - ・仁摩を知り、仁摩に愛着を感じ、誇りに思う子どもを育てる。
 - ・石見銀山遺跡や仁摩と銀山の関わりについての学習をとおして、地域の文化遺産について理解を深め、学習したことや感じたことを発信しようとする態度を育てる。

4. 学習内容

学年	4 年	5 年	6 年
単元名	先人の足あと ～井戸平左衛門～	発見！石見銀山	わたしたちのまち 仁摩の世界遺産
ねらい	石碑や代官所跡の見学を通して、井戸平左衛門の功績を知ると共に、地域の人たちの井戸平左衛門への感謝の気持ちを感じとり、ふるさと仁摩のよさを発見し、愛着をもって生活しようとする。 実際にさつまいもを育て、その苦労を実感する。	世界遺産について知り、自分のテーマを決め、調べ学習や現地学習をする。 石見銀山の石銀地区や間歩を見学し、当時の人々の暮らしぶりや仕事の様子に思いをはせ、そのすばらしさや、守り続けてきた人々の思いや願いに気づき、世界遺産を大切にすることを育む。	仁摩町と銀山の関わりについて興味をもち、現地学習を通して、郷土の貴重な歴史遺産や文化についての理解を深め、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守っていこうとする心情を育む。 現地を歩いて感じたことや調べたこと、教わったことをまとめ、自分達にできることを考え、地域へ発信する。 また、世界遺産の保全についても考え、竹の伐採をしてそれを生かす方法についても学んだ。
内容	・井戸平左衛門について調べる ・石碑の見学 (仁万・馬路・宅野 大国・大森代官所跡) ・学習のまとめ(新聞) ・さつまいもを育て、保存する。	・世界遺産とは ・調べたいテーマをつくる ・現地見学 (龍源寺間歩・大久保間歩・石銀地区) ・調べ学習 ・学習したことを新聞	・石見銀山について知ること、調べたいこと ・なぜ世界遺産になったのか ・竹について考える。 ・石見銀山の保全について考える。 ・街道を歩く 大久保間歩～永久鉱山跡

	・学習したことを学習カードにまとめる。	にまとめる。	永久鉱山跡～鞆が浦港 ・調べ学習 ・学習のまとめ (パンフレットづくり)
--	---------------------	--------	---

5. 実際の学習の様子

【第4～6学年の実践】

■竹の学習（6年）



人々は、竹を利用して様々な道具をつくり、生活の中で活用してきたことを講師から学んだ。

■竹の伐採（6年）



石見銀山遺跡の保全のために、竹を伐採する必要があることを知り、実際に現地に出かけて活動した。

■銀山街道を歩く（6年）



二日間に分け、大久保間歩から鞆ヶ浦港までの街道を歩き、ガイドをしていただきながら、当時の人々の苦勞や思いを実感した。

■石銀地区見学（5年）



間歩と石銀地区を見学して、当時の様子を学んだ。

地域にある井戸公の石碑や井戸神社を見学し、功績を学んだ。

■井戸公石碑見学（4年）



6. 学習の成果と課題

- ・地域の方から話を聞く活動や調べ学習を通して、地域に昔から大切にされている物や、それを支えてきた人々の思いに気づくことができ、自分達の住んでいる仁摩にさらに誇りと愛着をもつことができた。
- ・世界遺産の保全について考え、竹の伐採をし、それを生かす方法について学び活動に生かすことができた。
- ・5年生は間歩の見学や石銀地区の見学を通して、昔の暮らしや銀の採掘の様子を思い描くことができた。
- ・4年生は、井戸平左衛門の石碑を元に銀山とのつながりを考えることができた。また、実際にさつまいもを栽培・保存し、来年度へ引き継ぐ学習を展開することができた。
- ・それぞれの学習内容を発達の段階に応じた方法で発信することができた。